

●冠攣縮性狭心症

通常、狭心症は心筋の酸素需要が増大するようなとき、つまり運動時などに症状が増悪するのが特徴ですが、夜間から早朝にかけての安静時に繰り返し狭心症の症状が生じることがあります。これは冠動脈の一過性の攣縮(動脈壁の筋肉が収縮する)によって、強い狭窄が生じるために、心筋の血流が著明に低下し安静時でも症状が出現してしまっている可能性があります。この冠動脈の攣縮はニトログリセリンなどの硝酸薬によって速やかに改善するのが特徴です(時に難治性の場合もあります)。薬物療法が基本で、カルシウム拮抗薬や硝酸薬を使用します。

